

トリプルiプロジェクト会員
佐久間 唯（大学生）



復讐がわら片反
いゝおが津波。

集 特定非営利活動法人
編 NPO 光と風

発行
Tel 旭
& 市
Fax 上
04 永
79 井
(57) 一
57 二
66 七
9

の復興なのでないかと思
います。この復興には何が
必要だろう、飯岡のこのの
復興に貢献したい、そう思
った同級生が、「飯岡（i）に
私（i）の愛（i）を」を合
い言葉にトリプル i
を立ち上げました。 purojekuto

上で、「この力の復興を進める
 になり、若者の私たちが次の世に
 直にも震災の悲惨さ、防犯の見
 どマインスを伝え、誇りなく、
 我慢できる郷土の誇りがある、
 自慢できる、はて来るとか、
 ことです。災害は一人ひとりが
 す。とんが、共有する、防犯に
 ついて考え、一人ひとりが、
 切だと言おう、と、これからは
 も、トリプルiプロジェクトの
 活動で広めていき、たいです。

命の大切さを考える防災教育
公開研究会（十月二十八日）

五年前の東日本大震災で、飯岡小学校は被災した多くの住民の避難所として活用された。そうした経験をふまえ「災害状況にに応じて自ら考え、判断し、自他の命を守る行動ができる子供の育成」を目的とした公開研究会が開催された。トリプルアイの佐久間唯さんが体験発表を行った。

あの日を忘れない！
語り継ぐ私の三・一一

夫婦で役割決め災害に備える！

高橋誠・すみれ夫妻（三川）

確て供恐震ン所事は所
 認来がろ。モにを直であ
 でて心し電―子確ぐ働の
 きた、配か柱ル供認にい日
 こでつがのをし自ても、
 こ託た倒近迎て宅い、
 で児。れくえかにた夫
 家所妻そでにら行。婦
 族にもう二行、き大は
 の駆やに度つ旭祖地別
 無けは揺目たの父震々
 事つりれの。託のでの
 をけ子て地サ児無夫場

上家が、浄化槽が持ち
 ちがって、水と砂が吹き出
 た。家が傾き戸の開け閉め
 出来ない。特に二階がひど
 子供が転ぶ程だった。し
 くアパルトメントが思い切
 て解体し、同じ場所に家を
 プに十一月に親子で防災キ
 に遭った。親の、今度災害
 て考えてみようと思っ
 夫婦で役割を決め、協力し
 家族を守る約束をしている。



それでも飯岡に住んでいたい！

寺村樹希哉さん（本町）

中震の三年のあった五年前は飯岡
 バムを三〇年見たとき突然の大
 地震。校庭に集められたが、
 教頭の判断でスポーツ公園に移
 と動して自宅にいた父は、避難し
 うと乗った流れてきた津波に流
 れたが、流れてきた津波に流
 乗れなかつたため波に引いて行
 か二日後に自宅に戻っていた。の
 惨状にびっくりした。海側の
 出入り口が壊され、津波が自
 宅から店舗まで侵入し、黒
 い海泥で埋まつていた。
 たのすぐには自宅に住めなかつ
 の入で、中学の卒業式も高
 が、その後修理して自宅に戻つた。
 あるか近いうちでいそいで、
 飯岡に残りたいといふので、
 職も残らなかつた。就
 の海が好きで、飯岡が好きだ。

讀者投稿作品

「九日（きゅうじつ・旭）の浜の賑わい夕涼み」

伊藤祥彦（富士見市）

